

プログラム

12:20—12:25 主催者挨拶 文部科学省

座長：梶井 靖 田辺三菱製薬株式会社 吉田 明 自然科学研究機構

12:25—12:50 BMIを実現する脳情報の計測・解析技術
平田雅之 大阪大学

12:50—13:15 成体脳ニューロン新生の機能的意義
今吉 格 科学技術振興機構

13:15—13:40 対人行動の障害の脳画像指標とその候補遺伝子との関連
山末英典 東京大学

13:40—14:05 統合失調症におけるシナプスグリア系病態の評価・修復への臨床・基礎融合的アプローチ
西川 徹 東京医科歯科大学

14:05—14:15 休憩

14:15—14:40 魚の研究から明らかになったヒトの脳の成り立ちと働き
岡本 仁 理化学研究所

14:40—15:05 霊長類脳の特徴と遺伝子導入技術の展開の意義
山森哲雄 自然科学研究機構

座長：赤澤智宏 東京医科歯科大学

15:05—15:45 パネルディスカッション
小澤滯司 高崎健康福祉大学
川人光男 株式会社国際電気通信基礎技術研究所
津本忠治 理化学研究所
村上富士夫 大阪大学

15:45—15:50 閉会の挨拶

※プログラムは都合により、変更となる場合がございます。

Neuro2010サテライトシンポジウム
2010年度文部科学省関連脳科学研究事業合同ワークショップ

脳科学における ヒト研究と動物研究のクロスオーバー

2010.9.1 WED. 12:20 — 15:50

神戸国際展示場2号館3階3A会議室 神戸市中央区港島中町6-11-1
URL: <http://kobe-cc.jp/index.html>

主催：文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」公開シンポジウム運営委員会、独立行政法人科学技術振興機構CREST・さきがけ



問い合わせ先

〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38生理学研究所内
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」事務局
Tel: 0564-55-7804 Fax: 0564-55-7805
E-mail: jointws2010@nips.ac.jp
URL: <http://brainprogram.mext.go.jp/>

平田雅之

ひらた まさゆき



大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学教室特任准教授

1987年東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻修了。工学修士。94年大阪大学医学部医学科卒業。2001年大阪大学大学院医学系研究科（脳神経外科学専攻）修了。博士（医学）。大阪大学大学院医学系研究科機能診断科学講座助教、同脳神経外科学教室助教を経て、2009年より現職。

専門は脳神経外科学。特に機能的脳神経外科学。現在はブレイン・マシン・インターフェースや言語機能解析に関心をもつ。

共著に『脳神経外科学大系』（中山書店、2005年）などがある。

今吉 格

いまよし いたる



科学技術振興機構さきがけ研究者（京都大学ウイルス研究所）

2003年大阪大学工学部応用自然科学科卒業。2008年京都大学大学院生命科学研究所博士課程高次生命科学専攻修了。博士（生命科学）。2007年～2008年日本学術振興会特別研究員（DC2）・京都大学ウイルス研究所、2008年～2009年日本学術振興会特別研究員（PD）・京都大学ウイルス研究所、2009年特定研究員（CREST）・京都大学ウイルス研究所を経て、2009年10月より現職。

専門は神経発生学・神経科学。特に哺乳類の成体脳におけるニューロン新生の機能的意義に関心をもつ。

第26回（2009年度）井上研究奨励賞受賞。

山末英典

やますえ ひでのり



東京大学大学院医学系研究科精神医学准教授

1998年横浜市立大学医学部卒業。2006年東京大学大学院医学系研究科卒業。医学博士。98年から東京都立松沢病院および都立梅が丘病院にて臨床研修。2000年から現在まで東大病院精神神経科に勤務し、2009年より現職。

専門はPTSDや統合失調症などの精神疾患の脳MRI研究で、特に脳形態解析。現在は自閉症スペクトラム障害の対人交渉の障害の脳基盤解明に関心をもつ。

2003年日本生物学的精神医学会・国際学会発表奨励賞受賞。

著書に『Using advanced neuroimaging techniques toward understanding schizophrenia.』（Nova Science Publishers、2007年）、共著に『精神疾患の脳画像解析・診断学』（南山堂、2008年）などがある。

西川 徹

にしかわ とおる



東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野教授

1977年東京医科歯科大学医学部医学科卒業。同年東京医科歯科大学医学部付属病院神経精神科研修医。79年国立武蔵療養所神経センター（現・国立精神・神経医療研究センター）流動研究員（～81年）、85年東京医科歯科大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。87年国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第三部室長、94年国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第三部部长、99年より現職（1999～2002年は国立精神・神経センター神経研究所部長を併任）。

専門は精神医学、分子精神科学。特に統合失調症の病因・病態の分子機構解明と治療法への応用に関心をもつ。

1993年日本生物学的精神医学会第1回学術賞受賞。2007年日本油化学会第6回オレオサイエンス賞受賞。

著書に『Schizophreniaの分子病態－内在性D-セリンおよび発達依存的発現制御を受ける遺伝子の意義－』（星和書店、2004年）、共著に『D-Amino Acids: A New Frontier in Amino Acid and Protein Research』（Nova Science Publishers、2007年）などがある。

岡本 仁

おかもと ひとし



理化学研究所脳科学総合研究センター副センター長、チームリーダー

1983年東京大学医学部卒業。88年東京大学大学院理学系博士課程修了。理学博士。同年～1991年ミシガン大学アンアーパー校、博士取得後研究員、91年～93年岡崎国立研究機構基礎生物学研究所助手、93年～97年慶應義塾大学医学部生理学教室専任講師、助教授を経て、97年より理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー。2008年より理化学研究所脳科学総合研究センター副センター長。東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、放送大学の客員教授も務める。

共著書に『遺伝子と経験が作る神経回路。現代生物科学入門第4巻神経生物学（浅島誠編）』（岩波書店、2009年）、『脳の基本設計図と心の進化、多様化、障害、シリーズ脳科学、脳の発生と発達（岡本仁編）』（東京大学出版会、2008年）、『脳の進化と心の誕生、脳科学の最前線（上巻、脳と認知と進化）』（講談社ブルーバックス、2007年）などがある。

山森哲雄

やまもり てつお



自然科学研究機構基礎生物学研究所神経生物学領域脳生物学研究部門教授／生理学研究所豊長類脳基盤技術開発室教授（併任）

1974年京都大学理学部卒業。81年京都大学大学院博士課程修了。理学博士。同年コロラド大学研究員、86年カリフォルニア工科大学研究員、91年理化学研究所フロンティア研究員を経て、94年より基礎生物学研究所教授。

専門は分子脳科学。現在は豊長類の大脳皮質領野の形成と機能に関心をもつ。

共著に『神経回路の機能発現のメカニズム』（共立出版、2004年）、『シリーズ進化学5巻「ヒトの進化」』（岩波書店、2006年）、『神経の分化、回路形成、機能発現』（共立出版、2008年）などがある。

小澤滯司

おざわ せいじ



高崎健康福祉大学教授

1965年東京大学医学部卒業。医学博士。70～72年マックスプランク脳研究所研究員、72年東京大学医学部附属脳研究施設生理学部門助手。73年自治医科大学生理学第一講座講師、同年米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部生理学教室研究員、75年自治医科大学生理学第二講座助教授、84年群馬大学医学部生理学第二講座教授、2002年～04年群馬大学医学部長、群馬大学大学院医学系研究科長、2003年～06年群馬大学大学院医学系研究科神経生理学分野教授。2004～09年群馬大学理事・副学長、2005～09年群馬大学重粒子線医学研究センター長を経て、2009年より現職。

専門は神経生理学。

著書に『標準生理学（第7版）』（医学書院、2009年）総編集などがある。

川人光男

かわと みつお



株式会社国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所所長

1976年東大理学部物理卒業。81年阪大大学院博士課程修了。工学博士。同年助手、87年同講師。88年（株）ATRに移る。2003年よりATR脳情報研究所所長、2004年ATRフェロー、IEICEフェロー。2010年よりATR脳情報通信総合研究所所長。2008年より科学技術振興機構さきがけ領域総括、文部科学省脳科学研究戦略推進プログラム課題A中核拠点代表研究者を兼任、現在に至る。

米澤賞、大阪科学賞、科学技術長官賞、塚原賞、時実賞、志田林三郎賞、朝日賞、APNNA賞、Gabor賞、「情報通信月間」総務大臣表彰、大川賞などを受賞。

著書に『脳の仕組み』（読売新聞社、1992年）、『脳の計算理論』（産業図書、1996年）、『脳の情報を読み解く』（朝日新聞出版、2010年）などがある。

津本忠治

つもと ただはる



理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー

1967年大阪大学医学部医学科卒業。医学博士。同年同大学附属病院にてインターン、その後内科研修医。72年同大学医学部附属高次神経研究施設助手、75～77年マックスプランク生物物理化学研究所留学、77年金沢大学医学部助教授、80～81年カリフォルニア大学パークレー校留学、83年大阪大学医学部附属高次神経研究施設教授、2005年理化学研究所脳科学総合研究センターユニットリーダーを経て、2009年より現職。

専門は神経科学。特に大脳皮質視覚野の発達と可塑性に関心をもつ。

著書に『脳と発達－環境と脳の可塑性』（朝倉書店、1986年）、共著に『分子・細胞・シナプスからみる脳』（東京大学出版会、2008年）などがある。

村上富士夫

むらかみ ふじお



大阪大学大学院生命機能研究科教授

1971年大阪大学基礎工学部生物工学科卒業。73年大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了。78年大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士課程修了。工学博士。74年大阪大学基礎工学部助手、78年岡崎国立共同研究機構生理学研究所助手、84年大阪大学基礎工学部講師、87年大阪大学基礎工学部助教授、88年大阪大学基礎工学部教授、97年大阪大学大学院基礎工学研究科教授、98～2003年岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所客員教授、2002年大阪大学大学院生命機能研究科教授（基礎工学研究科を兼務）、2008～2010年大阪大学大学院生命機能研究科研究科長、教授を経て、2010年4月より現職。

専門は神経科学。特に発生神経科学。現在は神経細胞の移動に関心をもつ。

著書に『脳はこうして作られる』（羊土社、1998年）、共著に『脳の神秘を探る』（大阪大学出版会、2001年）などがある。